

967
E
54



0000395000

0000395-000

302.25-Y75ウ

セイロン島事情

横浜正金銀行調査部

昭和18

AAB

セイロン島事情

横浜正金銀行調査部

967

54

セイロン島事情

正金特報第拾號 (昭和十八年三月)

横濱正金銀行調査部

印度にして印度にあらざるものがセイロン島である。印度大陸とは、一衣帯水を隔て、等しく英國の支配下には在るが、政治的、經濟的、社會的に別箇の存在だと云へやう。印度洋は既に我帝國の制壓下に在る。そこに浮び上るセイロン島の事情を極く簡単に報告する。

尙本稿の統計、資料は左記に據つたものである。

“Annual Report of Ceylon 1936”

“Commercial Ceylon” 1933 by Nicholas S.

“Statesman's Year Book 1941”

昭和十八年三月十六日

302.25
Y 75

目次

一、地勢	一〇
二、人口	二
三、歷史	三
四、政治	三
五、財政	五
六、金融	六
一、通貨	七
口、銀行	七
七、產業	九
一、農業	九
口、水產業	一〇



ハ、鑛業……………一〇

八、貿易……………二

セイロン島事情

頭取席調査部 竹下松次郎稿

967
54

一、地勢

ボーク海峡を距て、印度の南に在る。東西一四〇哩（最廣）南北二七〇哩（最長）總面積二五、三三二平方哩、英本國の約半分位の大きさの島である。其の主要港「コロムボ」から世界各地への距離を見ると

横濱まで	五、〇八三哩
倫敦まで	六、七二五哩
ケープ・タウンまで	四、三六二哩
シドニーまで	五、五五六哩

であり、大體之等四點への中心に位してゐることが判る。氣候は熱帯としては凌ぎ良い方で、平均温度は低地で八十度高地で六十度位、三月から五月が最も暑い。

「西南モンスーン」と「東北モンスーン」との影響によつて降雨地帯が變化するが、雨量は「コロムボ」邊で平均九〇吋位である。

二、人口

一九三一年の人口調査に依ると、全島人口は五、三二二、五四八人で、之を人種別に見れば

シンハリズ	三、四七〇、〇〇〇人
タミール	一、四二〇、〇〇〇人
ムライア	三二〇、〇〇〇人
マライ	二〇、〇〇〇人
歐羅巴人	一〇、〇〇〇人
歐、亞混血人	三〇、〇〇〇人
其 他	三〇、〇〇〇人

又、之を宗教別に見ると

佛 教 徒	三、二七〇、〇〇〇人
印 度 教 徒	一、一六〇、〇〇〇人
基 督 教 徒	五二〇、〇〇〇人
回 教 徒	三六〇、〇〇〇人

シンハリズは大體佛教徒、タミールは印度教徒が多い。西部、中央部が人口最も稠密である。

三、歴史

原住民は、「ナガ」と「ヤカ」との兩族であつたらしいが、紀元前五百年に印度から「アリアン」民族が侵入し、之がシンハリズ王朝を築いた。彼等の文化は佛教の隆盛と共に相當華やかなりしことが傳へられてゐる。其後、タミール族等が更に印度から進來し、之等の民族の間に絶えず鬭争が續けられたが、シンハリズが大體優勢を續け、十二世紀頃は其の最高潮に達した。處が、十六世紀になつて最初の白人ポルトガル人が海岸地帯を占領し、十七世紀にはオランダ人が之に代り、一七九六年に至つて英國人が、オランダ人勢力を驅逐して、既に其の制壓下に在つた印度マドラス州の一部とした。其後一八〇二年、現在の直轄植民地として本島は獨立したものである。

四、政治

總督の下に、State Council あり、之は、三名の Official Member (此の三名は Officer of State と呼ばれ、夫夫 Chief Secretary, Legal Secretary, Financial Secretary の地位を有す。)五十名の elected member 並に八名の總督指名員によつて構成され立法、行政兩面の職能を掌る。

State Council は、左の七部門に對する行政委員會を選擧する。即ち

- 一、内務部
- 二、農務部
- 三、地方行政部
- 四、厚生部
- 五、労働、商工部
- 六、教育部
- 七、交通部

而して各部委員會は夫々、委員長を選び委員長は、總督によつて、各部の大臣として任命されるのである。之等七名の大臣は、前記三名の *Officer of State* と共に、*Board of Ministers* を構成する。
 セイロン島は行政上、左の九州に分割され、州は更に地區に分たれて居る。即ち

- | | |
|--------|-----------------|
| 州 | 地區 |
| 一、西部州 | コロムボ・カルタラ |
| 二、中央部州 | カンチ・マタル・ユワラ・エリヤ |
| 三、南部州 | ガル・マタラ・ハムベントタ |
| 四、北部州 | ジアフナ・マナル・ムレチブ |
| 五、東部州 | バチカロア・ツリンコマリ |
| 六、西北部州 | クルネガラ・パタラムチロ |

七、北中央部州 アヌラジアブラ
 八、ウバ州 バヅラ
 九、サバラガムワ州 ラトナブラ・ケガラ

而して、各州は *Government Agent* によつて、統治される。

五、財政

一九三八—三九年度に至る五ヶ年間に於ける財政收支状態を見ると

	入	出
一九三四—三三年度	九八、九九三、五五一留比	一〇七、二八六、一二四留比
一九三五—三六年度	一〇二、七七〇、五〇六	一一〇、九一八、四三六
一九三六—三七年度	一一九、一九六、九〇〇	一〇八、七七八、七八五
一九三七—三八年度	一一三、四七四、三四〇	一二〇、一九〇、三九五
一九三八—三九年度	一一七、四二六、六四五	一二八、九五二、九〇〇

歳入の内、主なる項目を挙げれば（一九三六—三三年度）

關稅	五四、〇六四、八九〇留比
所得稅	九、〇二七、一五〇

酒料税	八、二二三、五九〇留比
鹽稅	二、一八八、八九〇
印紙稅	三、八〇二、四五五
港灣收入	五、九四八、三七〇
郵便電話收入	六、二七六、二五五

歳出の主なるものは(一九三六―三七年度)

教育費	一六、七四九、四三五留比
衛生費	一一、〇八四、九一〇
年金、退職手當	一〇、七一四、八三〇
公債基金、減債基金	八、四五〇、三一〇
公共事業費	五、二五六、九一五
軍事費	二、七六五、二九五

尙、一九三七年九月三十日現在、本島政府負債は左の通りである。

英債	一一、二四三、七七五磅
内債	三〇、七七五、〇〇〇留比

六、金融

イ、通貨

セイロン留比(百セント)を以て貨幣の單位とし、之は英貨とは一志六片、印度留比とは等價を以て連繫されて居る。通貨は、政府發行の紙幣と、硬貨とより成立つて居り、其種類は

紙幣	千留比、五百留比、百留比、五十留比、十留比、五留比、二留比、一留比
銀貨	一留比、五十仙、二十五仙、十仙
白銅貨	五仙
銅貨	一仙、半仙

尙、一九三九年末に於ける紙幣流通高は五三、二〇九、〇〇〇留比であつた。

ロ、銀行

本島には、左の如き銀行が存在する。

英國系

- Chartered Bank of India, Australia & China
- Hongkong & Shanghai Banking Corporation.
- Mercantile Bank of India.
- Eastern Bank, Ltd.

National Bank of India, Ltd.

Thomas Cook & Son (Bankers), Ltd.

印度系

Imperial Bank of India.

Indian Bank Ltd.

Calicut Bank Ltd.

Bank of Chettinad, Ltd.

本島固有のもの

Ceylon State Mortgage Bank.

Bank of Uva.

Bank of Ceylon.

尙、此の外に貯蓄銀行として

Post Office Savings Bank.

Ceylon Savings Bank.

又、村落金融機關として全島に八百五十餘の村落信用組合 (Village Credit Society) がある。

七、産 業

イ、農 業

主要農産物と其の植付面積を示せば(一九三五年度)

椰子	一、一〇〇、〇〇〇エーカー
米	八五〇、〇〇〇
ゴム	六〇五、〇〇〇
茶	五五七、〇〇〇
煙草	一四、〇〇〇
野茶	一四〇、〇〇〇
香料	一五〇、〇〇〇

椰 子

主として西北州、西部州及南部州に栽培される。一エーカーに付、大體五十本乃至九十本位植付、年に六回果實を取る。一本から平均三十箇位の果實が取れる。コブラは其の肉を乾燥したもので、椰子油の原料となる。椰子油製造は、本島内でも行はれて居る。椰子の外皮纖維は刷子、綱として利用される。椰子、コブラ、其製品等の輸出額は年約三千萬留比に上つて居る。

米

西北部州を主とし、各州に産出する。年二回の收穫(八月から十月に蒔き、二月三月に刈入るマハ收穫と、三月、

四月に蒔いて、七月、九月の間に刈るヤラ收穫)がある。年産約一千三百萬ブツシエルであるが、本島人を養ふに足らず、ビルマ米を相當輸入して居る状態である。

ゴム

全島に亘つて栽培されて居るが、サベラガムワ、西部、中央部、南部諸州が中心である。年産約八萬噸に過ぎないけれど、目下敵側に於ける唯一のゴム産地として、其の價値は貴重なものであらう。

茶

中央部の海拔千五百尺から五千尺位の高地が茶園として最適地であり、二千三百の大茶園、其他七萬の小園に於て栽培されて居る。(茶園労働者は殆ど全部、印度からの移民である。)茶は實に、本島の生命とも云ふべく、年輸出額は一億五千萬留比に達し、輸出總額の六割を占める。

煙草

北部州のチアフナ地方が主産地であるが、高級品はカンチ地方に出来る。

水産業

海、河川の水産物は、豊富なことが想像されるが、漁業が未だ幼稚で、充分開發されて居らない。眞珠牡蠣やチャックと稱する介殻(裝飾品として印度へ輸出される。)の採取は、相當行はれて居る。

鹽は、西北海岸の海水から取れる。年産三萬五千噸位、製造、販賣共政府の管理下に在る。

鑛業

黒鉛

礦産物中最も重要なもので全島に、八十の鑛山があるが、近代的設備を有するものは、極く僅かで、年産三萬噸位、我國へも相當輸出されて居たものである。

寶石

西南部殊にラトナプラ地方に産出され、ルビー、サファイヤ等種類も多く、年産約二百萬留比、上等品は歐米へ、其他は印度向輸出される。

八、貿易

少し古い統計であるが、一九三六年迄五ヶ年間の本島貿易状態を見ると

(單位千留比)

	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
商品輸出	一七四六五	一〇一一二	三二一九三	三三〇〇一	三三三二五
商品再輸出	三三三三	一〇〇二二	三三六七	三三〇八一	三三〇六〇
商品輸入	一九〇四九	一七二四七	三六九九六	三七五〇二	三三三三八
金銀輸出入	(入)一〇一	(入)一四六	(入)一五	(入)一五	(出)三〇
差引正味輸出入	(入)七三三	(出)三、六〇〇	(出)四、七九九	(出)三、六七	(出)四、四一五七

輸出品は茶、ゴム、椰子油等、輸入品は綿製品、米、砂糖、石炭等が其の主なるものである。

而して輸出入共、對英本國並に英領が大部分を占めて居る。即ち、輸出に於ては

英本國向	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
	四九二・九%	五〇五・三%	五〇九・〇%	五〇八・六%	四七九・七%
英領向	三三〇・三	一九八・四	一六八・三	二二・五九	二二・一四
其他外國向	二七六・九	二九六・三	三三三・七	二七・五五	二八・八九

輸入に於ては

英本國ヨリ	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
	一九〇・六%	一七五・三%	一八三・九%	三〇六・二%	二二・二%
英領ヨリ	四七五・九	四六八・一	四三二・九	四五・二七	四四・五七
其他外國ヨリ	三三三・五	三五六・六	三八九・三	三四・二三	三四・三三

日本との貿易關係は (單位千留比)

日本向輸出	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
	一、〇〇〇	一、四七四	一、四九九	一、八二七	一、八六六
日本ヨリ輸入	一三、三三三	一三、八三六	一八、八二六	一三、三三三	一三、七四一

椰子纖維、黒鉛等を輸出し、綿製品、絹、人絹製品、セメント、茶箱、其他雜貨を輸入した。輸入額は英領以外の諸外國中の首位を占めて居た。

〔以 上〕

967
54



昭和十八年四月廿七日 印刷
昭和十八年五月二日 發行

(非賣品)

發行者

東京市日本橋區本石町一丁目六番地
橫濱正金銀行調查部長

難波 勝二

印刷者

東京市京橋區銀座四丁目四番地
北川 武之輔

發行所

東京市日本橋區本石町一丁目六番地
橫濱正金銀行

